

三国街道「二居峠越え」 調査山行報告

調査日：2022年10月16日（日）

参加者

松井潤次、廣井博行、井口光利、井口礼子、小野寺昭彦、渡辺茂、君清
多田政雄、滝沢信子、鈴木勝利、鈴木千鶴、佐藤芳英 合計12名

湯沢市街地から三国峠間の旧三国街道は現在の国道17号線とオーバーラップする区間が多く、古道調査として歩ける区間は限られる。

三国街道の山中三宿として三俣、二居、浅貝があるが、二居峠を越え二居宿に至るルートが中部北陸自然歩道として整備され往時を偲ぶことができる。

このルートは「越後三国街道石畳の道」とも言われ、貝掛温泉から平標登山口までを結ぶ9km余りの自然遊歩道である。

ジグザグ天気の時節柄、幸いにも当日は好天に恵まれた山行となった。国道17号線貝掛温泉バス停の広い路側帯に各自駐車し、貝掛温泉入口を8時に出発。



起点標柱



国道下トンネル



沢に架かる橋

起点の標柱から17号線に沿って歩き出す。しばらく進むと17号線の下をトンネルで横断する。さらに沢に架かる橋を渡り木々に覆われた遊歩道を進むが「クマ注意」の看板と野生猿の捕獲檻や、イノシシの足跡も多く野生動物の出没に要注意である。途中、開けた伐採地を通過し、落ち葉に覆われたつづら折りの道を登るが歩き易い。1時間程でブナ林に囲まれた「中の峠」の茶屋跡に到着。石祠を確認する。峠をあとに下りに入ると明治初年に敷設された石畳がみられ「日向の石畳」として旧街道の面影を残している。



中の峠



日向の石畳



二居峠へ

程なく前方の高い尾根に送電線鉄塔が見えてくると鞍部となり、二居峠への登りが始まる。

相変わらず樹林帯の中をなだらかに造られたつづら折りの道を進むと「二居峠」の東屋に到着。しばし、国道17号線と二居集落を見下ろし休憩をとる。



二居峠 東屋



眼下に国道17号線



二十三夜塔

峠からの下りはう回路がつけられ、5mほどのトラロープが張られた急な下りがある。道はやや狭くなるが、つづら折りが大きく付けられており、緩やかに下ることができる。杉林が現れてくると二居集落だ。



二居本陣跡



山鳥原茶屋



石畳のみち

二十三夜塔などの石像群が傍らに立っている。集落内を進むと、切妻入り二階建ての立派な二居宿本陣跡「富沢家」が残っている。戊辰戦争で消失したが元通りの間取りで再建され往時を偲ぶことができる。「宿場の湯」で二居集落を後にし、二居川の右岸に沿って車道を山鳥原茶屋に向かう。途中の広く開けた伐採地からは松手山鉄塔や色づき始めた平標山の頂を遠望できる。車止めから公園の中に入る。丁度、正午に山鳥原茶屋に到着し昼食タイムとする。立派なビジターセンターがあり、トイレも清潔で快適である。「山鳥原公園」は山野草園、白樺とツツジの森、旧三国街道を再現した石畳のみちなどがあり、自然を生かした公園で自然散策にお奨めだ。ここから旧三国街道は国道17号線へと入るが、公園内に整備され再現された石畳を歩き平標登山口へ向かう。

別荘地内を進むと松手山登山口を通過し平標登山口バス停に到着。13時の路線バスにて貝掛温泉バス停に戻る。各自「道の駅みつまた」に再集合し、三俣宿を散策し、百庚申や石仏めぐり、三俣村道路元標、脇本陣跡「池田家」、伊米神社の光ゴケ・苗場山からの眺望を讃えた「天下之靈観」碑など見学した。その後、八木沢の森のカフェにてお茶をして解散。



三俣宿脇本陣池田家



三俣村道路元標



森のカフェ

コースタイム

貝掛温泉バス停 8:00 → 9:00 中の峠 → 10:00 二居峠 → 11:00 二居宿 →
12:00 山鳥原茶屋 12:20 → 12:50 平標登山口バス停
13:00 ⇒路線バス⇒ 13:10 貝掛温泉バス停

松井 記